

あじさい  
紫陽花の花は、その色を変えていきます。

ひんしゅ  
品種により違いはありますが、はじめは白、やがて青に変わり、いつしか紫色に変わっていくことが多いでしょう。

これは、土の酸性度の強弱さんせいどによるものだといわれています。あじさい  
紫陽花は、土とのつながりによって、花の色を変えていくのです。

これは、仏教の「縁起えんぎ」の教えを思い起こさせます。「さまざまつながりによって、私たちは生きている」ということを示すのが「縁起」です。たとえば空気や水、食物などがなければ私たちは生きてゆくことができませんし、両親をはじめご先祖さまがいなかったら「私」という存在が現れることはなかったでしょう。

そしてそのつながりは、ダイナミックに刻々こっこくと変わり続けます。つながりによって、私たちも変わり続けているのです。それは、土とのつながりによって色を変えていく紫陽花のようです。

紫陽花の花の色は、日ごとに変わっていきます。これはまた、仏教の「諸行無常しよぎょうむじょう」の教えを示しているようにも思えます。

「すべての存在そんざいは変わりゆくものである」というこの教えは、“存在のはかなさ”を感じさせます。紫陽花の花の色は日ごとに変わるわけですから、昨日の色と今日の色は同じように見えても、微妙びみょうに変わっていきます。今日の花の色と明日の花の色も、かすかに違っているでしょう。

あじさい  
今日の紫陽花の花の色は、今日だけのかげがえのない色です。二度と帰ってこない今日の色なのです。だからこそ尊いのです。

私たちもそうなのではないでしょうか？

私たちは今日まで、変わりゆくいのちを懸命ときどきに生きてきました。その時々ときどきのいのちを精一杯生きてきたのです。明日、私たちのいのちはどのように変わりゆくかはわかりませんが、今日の私たちは二度と帰らない、かけがえのない今日のいのちきょうだということを、紫陽花の花は教えてくれているような気がします。

あすかがわ  
飛鳥川 あすは知らねど 水色に 今日にはほへる あじさいの花

## 『禅のこころ-曹洞宗-』

---

短い人生の中で、数々の名作を書き残した明治の作家、樋口一葉<sup>ひぐちいちよう</sup>の紫陽花<sup>あじさい</sup>を詠<sup>うた</sup>った短歌です。

紫陽花が今日も色を匂わせて咲いているように、私たちも、さまざまつながりに支えられた今日のいのちを、しっかりと生きていきましょう。

— 終 —